



ロータリー：
変化をもたらす

2017-18年度
国際ロータリー会長
イアン・ライズリー
第2600地区ガバナー
関 邦則

国際ロータリー第2600地区

上田六文銭ロータリークラブ

RoKumonsen Rotary Club

創 立 1997年2月18日

2017-2018 会長：生川 秀樹 ■ 幹事：杉山 裕
例会日 毎週火曜日 12:30-13:30 例会場 上田東急REIホテル2F
事務局 〒386-0025 長野県上田市天神4-24-1 上田東急REIホテル3F
TEL 0268-25-6000 FAX 0268-25-6002 <http://www.ueda.ne.jp/~ueda6rc/>
●会報委員長 松澤 一志 ●副委員長 北村 久文 ●委員 柄澤 亮



例会日誌

司 会	杉山 裕君
開会点鐘	生川 秀樹君
ビジター (定時受付)	
上田 RC 滋野 眞君	上田東 RC 宮本茂幸君
上田西 RC 竹内哲也君	
プログラム	
早朝例会	海禅寺様にて



会長挨拶

会長挨拶

生川秀樹君

本日は毎年恒例の海禅寺様での早朝例会です。飯島ご住職様には、開催場所のご提供とご法話を頂きありがとうございます。昨年は 20 周年の節目で物故会員の法要を兼ねた例会でしたが、節目節目でクラブ運営にご尽力された物故者の方々をしのぶ機会を設けることは素晴らしい伝統であり、長く続けていきたいと考えております。

物故者に関する詳細は、2017 年 4 月 11 日の西澤文登直前会長の会長挨拶文に詳しく載っておりますので割愛させていただきますが、記録として大変貴重な文章であると思います。クラブのホームページで閲覧できますので、是非読み返してください。

本日は、飯島ご住職の貴重なお話ございましたので、私の挨拶は簡単にさせていただきます、その分、素敵なお庭と桜の花を愛でて頂きたいと思っております。



幹事報告

杉山 裕君

- RI より
 - ・ the rotarian 4 月号
 - ・ 2018 年 4 月ロータリーレート 1\$=104 円
 - ・ 『母子の健康月間』リソースのご案内
 - ・ 財団室 NEWS 4 月号
- 上田 RC 様より
 - ・ ジャズライブのご案内
- AMU より
 - ・ 学習部会のお知らせ
- UCV より
 - ・ 桜ライブカメラのご案内
 - ・ 光電話のご案内
- タツノより
 - ・ 働き方改革ガイドブック

恵送

- 上田 RC 様・桐生赤城 RC 様・・・会報その他
 - 次週 4/17 は理事会です。



出席・ニコニコBOX報告

吉田 穰君

	ベース	欠席	メイク	出席率
本 日	22	7	-	68.18%
前々回	21	4	2	90.48%





海禅寺様よりニコニコ BOX にご芳志をいただきました。

生川秀樹君 本日は飯島住職様、よろしくお願
いします。なんとか桜の花が持っ
てくれてよかったです。

大久保昌宏君 朝例会、おはようございます。
飯島さんよろしくお願ひします。

吉田 穰君 初めての早朝例会です。楽しみで
す。

柄澤 堯君 桜満開で花冷えします。

笠原 一洋君	北村 久文君
松澤 一志君	宮原 宏一君
西澤 尚夫君	西澤 文登君
杉山 裕君	山田 豊君
横沢 正君	

プログラム

早朝例会 午前 7:00～ 海禅寺様にて

～長寿社会での「生」～

海禅寺住職 飯島俊勝様



今年も、桜の季節が巡ってきての早朝例会であり
ます。

日本は、世界でも名だたる長寿国である。平成 28
年の平均寿命が男性「80. 98 歳」、女性「87. 14
歳」、平成 27 年の統計であるが長野県の平均寿命
が男性「81. 75 歳」、女性「87. 67 歳」である。
新聞の訃報お悔やみ欄でも 80 代後半から 90 代
の方が多く見受けられる。大変な病に罹るか、不養
生でない限りは、医術の進歩と共に長寿社会とな
った。誠に結構なことである。乳幼児の死亡率の
低さ、犯罪率の低さ、教育の普及度と共に国民生
活の高さの指標となる。経済的な豊かさだけが指

標でない。

しかし、長寿社会も、これほど少子化が進むと、
社会的な問題も露呈してくる。将に、健康な老人
ばかりではないのである。加齢、病気からくる介
護の必要となる老人達がそれだけ増えるのであ
る。外国から介護者の人材を注入もなされている
ようであるが、自分を介護し、看取ってくれる人
がいるのか。家族や子供たちがいるのか。はたま
た、どこかの施設か、病院で逝くのか、そのよう
な人もいなく孤独の中で生涯を閉じるのか。

生物は必ず死ぬ。世の中に 100%として存在す
るのは、人の死である。必ず我が身に訪れる。長
生きすれば、生を喜ぶと共に、反面それだけ「死」
に近づくのである。これは紛れもない事実である。
であるならば、必ず訪れる「死」を受容して、今
ある「生」を大事に生きる。

冬期オリンピックで活躍した、茅野市出身の小
平奈緒選手が、「明日死ぬかのように生きよ、永
遠に生きるかのように学べ」と、レース前の抱負
で述べている。

明日が、必ず訪れる保障はない。今を、この瞬
間を充実感をもって過ごすことが如何に大事であ
るかを示唆してくれている。その上に、彼女のあ
の成果があったのであろうと思う。

我々も、自分に与えられた、有限の人生を、楽
しく、豊に、幸せに生きようではありませんか。

